Ain't の語法

大槻　博

今日，ain't は am not, are not, is not, have not, has not の短縮形として用いられている。これらのうち am not, are not, is not の短縮形としての ain't は，そもそも an't から派生したもので[1]，この an't は are not の短縮形 aren't の r が，発音されなくなったものである。そして we ain't, you ain't などの類推から，I ain't が生じたものと考えられる。isn't のかわりに ain't が使われるのも，同じ類推からであろう。have not, has not の短縮形としての ain't は hain't から派生したもので，h が落ちて ain't となったのである。

これら am not, are not, is not, have not, has not の短縮形としての ain't の用法について，辞書，文法書などはこれを非標準語，もしくは方言としている。ただ例外的に付加疑問文における ain't I，たとえば I'm going too, *ain't I*?' に使われたりする場合は，文法的に正しい am I not はあまりに pedantic な感じであり，又 amn't I は舌をかみそうなので，この ain't I は標準語として認められているようである。ちなみに，ain't のレベルをいくつかの辞書で調べてみると，OED は方言とし，ディケンズの作品にみられるロンドン方言の次のような例を載せている。

"You seem to have a good sister." "She *ain't* half bad."

Webster's Third International は，ain't を非標準語としている。I ain't は多くの人に非難され，教育を受けた人にはあまり使われないが，ain't I は句として全国的に教養のある人に話されるとしている。Random House は，am not の短縮形としての ain't は，アメリカでは非標準語もしくは方言であり，イギリスでは形式ばらない場で使われる。そして are not, is not, have not, has notの短縮形としては全くの非標準語としている。Webster New World の college 版では am not の短縮形のみを口語として，他の短縮形は非標準語もしくは方言としている。そして付加疑問文の ain't I は多くの辞書などによって認められるとしている。

このように一般的に，付加疑問文の am not I の短縮形ain't I は形式ばらない場で使われる口語として標準語として認められるが，他の am not, are not, is not, have not, has not については非標準語もしくは方言と結論づけられるようである。この ain't の用法について，1932年になされたレナード調査もやはり同じ結論がでている。"I suppose I'm wrong, *ain't I*?" は，Disputable な用法であり，"That *ain't* so," "*Ain't* that just like a man?" は，Uncultivated もしくは，Illiterate な用法であるとしている。このレナード調査の6年後に，辞書になってなされたマックワート，ワルコットの調査と一昨年に同じく辞書でなした私の調査でもやはり，レナード調査の裏付けをしている。
すなわち，"I suppose I'm wrong, *ain't I*" に，両調査とも Colloquial というレベルを与えたのに対して，"That *ain't* so" "*Ain't* that just like a man?" はマックワート，

ワルコット調査では Dialect, 私の調査では Slang である[2]。

付加疑問文 ain't I をのぞいた他の場合の ain't は，非標準語又は方言とされている。それでは方言としての ain't はどのような地方でみられるのであろうか。Malmstron の Linguistic Atlas[3] によると，"I *am not* going to hurt him." という文で，ain't はアメリカ東部では高等教育を受けた人の会話ではまったく聞かれなくて，彼らは I'm not と話す。しかしこの場合の ain't は中等教育を受けた人のアメリカ上中西部[4] での25%からノースカロライナとバージニアでの80%まで話され，口語として認められるが，この用法が広まっているのではない。そして付加疑問文の ain't I はもっと聞かれるとしている。また Atwood や McDavid の調査[5]によると，(1) "I *am not* going to hurt him." のような文で使われる ain't, (2) "I *have'nt* done it." のような文で使われる ain't, (3) "I'm right, *am I not*?" のような文での ain't について次のような結論がでている。(1)について，ニューヨークあたりではアンケート調査の依頼を受けた人すべてが，I'm not と言うが，他の全地域では ain't はかなり教育を受けた人たちの間でも使われ，その結果(1)のような文脈での ain't の用法は言語地図では "popular" な語法とされている。すなわち中程度の教育を受けた人たちによって全国的に使われている。しかしながら，教養のある人の間に広まっていないとしている。(2)の場合も，やはり(1)と同じような結論が得られたとしている。(3)の場合の ain't I は，全国的に高等学校を卒業した人の大多数が話している。高等教育を受けた教養のある人についていうと，ニューイングランド地方では約20%，中部及び大西洋南岸[6] の諸州では約35%，北中部[7] では約73%が話すが，上中西部の大学卒業生には話されていない。ain't I と言う教養ある人は北中部を除いてほとんど常に am I not とも話す。またニューイングランド地方や上中西部では Aren't I もしばしば聞かれる。しかし Amn't I はどこでも全く聞かれない。結論的にいうと ain't I は北中部では標準語で，上中西部を除いた場所では一般的に使われ，この用法は広まっているとしている。このように言語地図を見ると，ain't という形は非常に複雑な地域的分布をなしている。

ain't のレベルの複雑さ，また方言としてときの地域的分布の複雑さを調べてみると，その複雑さの要因に ain't があらわす内容の複雑さと大いに関係があると思える。たとえば he is not が必ずしも，he ain't と発話されるわけではなく，he's not と発話されたり he isn't と発話されたりする。それでは一体 ain't と発話される時，何の短縮形として多く用いられるのであろうか。俗語が多くみられる James Baldwin の "Blues for Mister Charlie" と南部がその小説の舞台となっている Erskine Caldwell の "Tobacco Road" から，ain't の分類調査をしてみた。

	Blues for Mr. Charlie		Tobacco Road	
am not の短縮形としての ain't：	14例	11%：	34例	13%
（うち疑問文としての am I not）	(1)	：	(1)	
is not の短縮形としての ain't ：	23	18 ：	99	38
are not の短縮形としての aint ：	29	23 ：	38	15
have not の短縮形としての ain't：	36	29 ：	51	20
has not の短縮形としての ain't：	9	7 ：	22	8
そ の 他	15	12 ：	15	6
計	126	100	259	100

これらの調査の結果と Shafer のおこなった調査の結果を比較してみる[8]。
Shafer の調査結果は次のようである。

am not の短縮形としての ain't	: 9%
is not の短縮形としての ain't	: 55
are not の短縮形としての ain't	: 18
have not の短縮形としての ain't	: 18
計	100

これらの調査からわかるように，おおよそ ain't は be 動詞の現在否定形の短縮形として用いられる方が，have 動詞の現在否定形の短縮形として用いられるより多いことがわかる。しかし，am not の短縮形としての ain't は意外に少ないのである。

"Blues for Mister Charlie" と "Tobacco Road" にある ain't が吟味された時，ain't がただたんに am not, are not, is not, have not, has not の短縮形ではない文がいくつかあった。それらは表によると，それぞれ前者では15例で12%，後者では15例で6%にあたる。Curm によると[9]，ain't は時間の副詞 not として使われたり，また黒人英語では ain't はしばしば don't や won't のかわりに用いられるとしている。しかし実際にはそれ以上に，ain't は言語活動に複雑な要素をもっているようである。

先にあげた "Blues for Mister Charlie" と "Tobacco Road"[10]から，ain't が am not are not, ais not, have not, has not をあらわさない特殊な例をあげてみる。各文の後の括弧内の BMC は 'Blues for Mister Charlie' から，TB は 'Tobacco Road' からの引用で，数字は頁数をあらわす。[11]

(1) ain't が not をあらわす
Wormy ones like mine was *ain't* fit for a human. (TR18)

(2) does not の短縮形
He *ain't* never give the colored man no kind of chance. (BMC117)

(3) is not の短縮形ではあるが，there の省略された形
Ain't no need to ask him. (BMC99)
Well, if she says no, *ain't* no problem, is there? (BMC143)
Ain't no sense in trying to grow turnips with a hoe. (TR28)
Ain't no other way. (TR102)

(4) しかしながら，次のように nobody の前に ain't がくる例は，there が省略された時の ain't とみるよりはむしろ，否定を強調した nobody ain't の倒置とみた方がよい，そしてこの場合 ain't nobody の形は，nobody is not, nobody has not をあらわす。
Ain't nobody in this town ever been able to say a word against you. (BMC84)
Ain't nobody going to kiss her, but that…(TR29)

(5) are not の短縮形で，there の省略された形
I can vouch the fact *ain't* many black ones. (BMC142)

(6) is not の短縮形で形式主語 it の省略された形
Ain't no way possible for you not to believe in God (BMC133)
Ain't no use in talking no more, Jeeter. (TR102)

(7) is not の短縮形で it の省略された形

"It *ain't* no secret between you and the Lord, is it, Sister Bessie?" "No, *ain't* no secrets between us." (TR52)

上記の文にみられるように，2重否定，3重否定の文が多くみられる。'Blues for Mister Charlie' にあらわれた ain't を含む文126のうち，2重否定，3重否定の文は47パーセントをしめ，また 'Tobacco Road' では42パーセントをしめる。このように高い比率からすると，ain't が発話される時，ain't よりも同じ文中の否定語の方が強く意識されるのである。そして sentense stess は次のようになるであろう。

Ain't nóthing môre tò téll. (BMC103)

nothing は ain't と対照的に stress が強くおかれる。

ain't は発話される時，アメリカ南部の黒人によって *ain'* と発音されることがある[11]。T. N. Page による Red Book に次のような黒人の発話の例がある[12]。

We *ain'* gwine live in blacksmiff shop always. (P. 288)

(=We are not going to live in blacksmith shop always.)

Nor, suh, he *ain'* dead yet; but de doctor say he *ain'* got much show. (P. 553)

(No, sir, he is not dead yet; but the doctor says he has not got much show)

ain't は辞書などにより，付加疑問文のain't I が口語である場合をのぞいて，am not, are not, is not, have not, has not の短縮形は非標準語すなわち俗語，あるいは方言とされている。しかしながら ain't の実態は今までみてきたように簡単に述べられることができない。方言であるとしてもたいへん複雑な面をもっている。これは aint がいろいろ多くの短縮形である事実からくるものである。またそのうえに，辞書などに示されている以外に，ain't が否定の副詞 not をあらわしたり，また ain't が話される時は，it や there の省略がみられたりするし，また2重，3重否定の文が多くみられる。このように ain't は言語活動において非常に生き生きと使われている語なのである。

注

① この an't から ain't への変化は，中世英語 a が近代英語 ei と変化したという事実から理解できる。たとえば tāke>take

② 大手前女子大学論集5号参照

③ M. Bryant : *Current American Usage*, p.16

④ アメリカ上中西部とは Upper Midwest で North Dakota, South Dakota, Nebraska Minesota, Iowa 各州をさす。

⑤ E. Bagby Atwood : *A Survey of Verb Forms in the Eastern United State* (Ann Arbor : Univ. of Michigan Press, 1953)
Virginia G. McDavid : *Verb Forms in the North Central States and the Upper Midwest* in her Minesota dissertation. Leonard F. Dean and Kenneth G. Wilson : *Essays on Language and Usage* (New York : Oſxord Univ. Press, 1963) p.285

⑥ 大西洋南岸とは South Atlantic States で，Virginia, Nouth Carolina, South Carolina, Georgia の一部

⑦ 北中部とは North Central States で，Michigan, Wisconsin, Illinois, Ohio, Kentucky 各州

⑧ M. Bryant, *Current American Usage*, 1957, p.15

⑨ George Curme; Syntax (Boston : D.C. Heath and Company, 1931) p.138

⑩ James Baldwin, *Blues for Mister Charlie* (A Bell Book, Edition, 1964). Erskine Caldwell, *Tobacco Road* (A Signet Book Ebition, 1947)

⑪ 昭和のはじめに書かれた牧逸馬のアメリカ紀行に「エインネ」と題する1章があり，ain't I は「エインネ」と聞こえるぐらいtは発音されるのである。(清水護編,「英文法辞典」培風館，ain't, an't の項参照)

⑫ W. Nelson Francis: *The Structure of American English* (New York : The Ronald Press Company, 1958). 542頁に方言を調査するのに適切な文学作品が載せてある。